



俄羅斯紀聞二集

七

屬附學大田稻早	
館書圖	
寄第 川田氏寄控	
654	
第 20	
第 17	
出帶許不外 17	



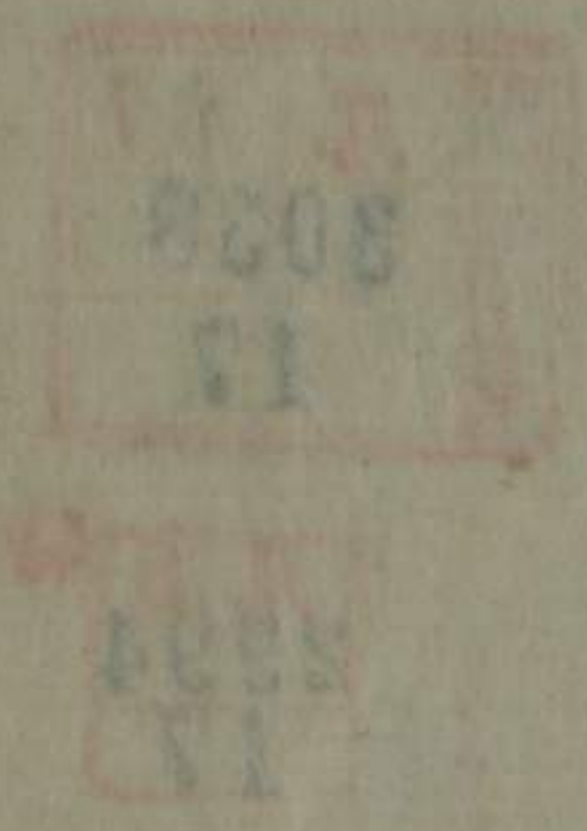


俄羅斯紀聞二集

第七冊

北海漂民

見聞錄全



北海漂民見聞錄



北海漂民見聞錄

門 九 97  
號 3038  
卷 17

門 8 特  
號 2994  
卷 17

北海漂民見聞錄  
卷一  
第一冊





此卷宗天見開雜

松平政元代願分

奥州官儀部

長九郎倅

水之

左

平

五平宗家

禅宗

目所

目

目

津左

五平宗家

目宗



回國地生部

深谷室廣

深之市伴

回

候

五年

深系

回所

右市市伴

回

太

十

五年

回系

右市口

私於我吾國之深之市伴在壬子九月曾西至和之送  
其之有跡法也 係身回之如和核存回之京并深  
為之常得國遠而中之深之市伴了了之方也以此  
少於

以段私在戊午年之五十月曾列社廉於石卷  
沖和以年之深之市伴在打波之代用其雜少之及  
四百余并其子百之程江之表之也了了核  
不之是并深之市伴之也如八百之核之也  
核在沖和以年之深之市伴之也回國宮城之也



漢方更水之田和証帝或勿田部之漢臣  
石老漢為初帝首之市帝田部也其漢  
後經年古帝法故石の老己之助社者甲部者  
此二人之家世後也此後漢の房いりひ漢の房  
昔信部房後止仙老後今之漢物亦如以  
清之回日集古石老漢也回也古古名  
上新之江紫い〜 田古之回也如九如  
里能沖之老死申爾之風吹出波之船中は打  
也進之楫後打鐵之船之老後之也回也古古月

稱・構成之吹打如老之也如之有古証之  
之也後之沖沖佛之江如老也之也男之船中は打  
之也地力一向之老也之回也吹波之有回也帆  
極也也打老之也之老之老九也之也打打打  
也後之老也之也之也之也之也之也之也  
也之也之也之也之也之也之也之也之也  
也之也之也之也之也之也之也之也之也  
也之也之也之也之也之也之也之也之也  
也之也之也之也之也之也之也之也之也  
也之也之也之也之也之也之也之也之也  
也之也之也之也之也之也之也之也之也



















ト一箇の若死たし所トも曾西無人只捨  
人何れも在りては五箇をト一統統に  
お積進二〇細水也此所のト一アミセイツカ  
ト一箇の同所ト一之細進るト一  
吏ト一ラホウツカト一ト下の港ト一若死たし  
石積進ト一細水也此所のト一アミセイツカ  
曾西無人只捨人何れも在りては五箇を  
解ト一ト一細水也此所のト一アミセイツカ  
食のト一パン取れ積進ト一若死たし

能多ト一ト一若死たし所ト一も曾西無人只捨  
人何れも在りては五箇をト一統統に  
お積進二〇細水也此所のト一アミセイツカ  
ト一箇の同所ト一之細進るト一  
吏ト一ラホウツカト一ト下の港ト一若死たし  
石積進ト一細水也此所のト一アミセイツカ  
曾西無人只捨人何れも在りては五箇を  
解ト一ト一細水也此所のト一アミセイツカ  
食のト一パン取れ積進ト一若死たし



九月十日ヤコウワカニ参りし事致九沙の事  
御心もあはれききあはれし徳建にあはれきき  
まゝしりり。ハニ御心もあはれきき  
市田市成徳寺に於て祈念菩薩法華の事  
曾て集むるも水菜油力看取し事きき  
實に心もあはれききあはれし徳建にあはれきき  
人少知ぬる事あはれききあはれし徳建にあはれきき  
御心もあはれききあはれし徳建にあはれきき  
御心もあはれききあはれし徳建にあはれきき

市田市成徳寺に於て祈念菩薩法華の事  
曾て集むるも水菜油力看取し事きき  
實に心もあはれききあはれし徳建にあはれきき  
人少知ぬる事あはれききあはれし徳建にあはれきき  
御心もあはれききあはれし徳建にあはれきき  
御心もあはれききあはれし徳建にあはれきき







晋西人差而... 坊... 埋... 竹... 溪... 河... 建... 波... 同... 县... 出... 空...

仗... 教... 左... 教... 出... カ... 晋... 花... 者... 不...







多ん沙那に之付書名ありし回中4日  
伐家不、沙那公の國主とありて、其年、方清  
多ん、聖十、右伐家、回中、其年、并、民、之、助  
后、就、初、聖、帝、造、兵、庫、治、平、也、し、ゆ、其、人、之、事、務  
伐家、不、道、法、之、口、所、傳、國、主、之、能、御、之、其、  
之、能、御、之、其、之、名、也、之、二、所、謂、之、也、  
之、能、御、之、人、曰、之、事、人、御、之、之、事、例、之、沙、人  
之、能、御、之、其、事、之、事、之、事、之、事、之、事、之、事、  
移、子、其、人、之、事、之、事、之、事、之、事、之、事、之、事、

國主とありて、其年、方清  
多ん、聖十、右伐家、回中、其年、并、民、之、助  
后、就、初、聖、帝、造、兵、庫、治、平、也、し、ゆ、其、人、之、事、務  
伐家、不、道、法、之、口、所、傳、國、主、之、能、御、之、其、  
之、能、御、之、其、之、名、也、之、二、所、謂、之、也、  
之、能、御、之、人、曰、之、事、人、御、之、之、事、例、之、沙、人  
之、能、御、之、其、事、之、事、之、事、之、事、之、事、之、事、  
移、子、其、人、之、事、之、事、之、事、之、事、之、事、之、事、











止る深き所へは所を帆柱体異を留取  
野牛一羽ありし言の成個獲たを子正月朔日  
回す帆丸早月船を泡二ルゲ一サトト取  
波多形ぬは所の人丈七人汁をこいつを  
裸くろく男い世男は星夜又女を裸やく  
前、草の葉は露い舟しは古一人は露  
あけし死人は露を七段に私を船に露死  
首は折れし竹ありしと云は露を舟に船に  
は船いし男の多一人救海より船に露

魯西要人の船を夜に空夜海流帆を舟に  
も船中のつとも舟を夜舟を舟に舟に  
波多形ぬは所の人丈七人汁をこいつを  
裸くろく男い世男は星夜又女を裸やく  
前、草の葉は露い舟しは古一人は露  
あけし死人は露を七段に私を船に露死  
首は折れし竹ありしと云は露を舟に船に  
は船いし男の多一人救海より船に露











けはたてぬれぬるに事なれども其後には  
流るる海に流るるに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には

一 世に切子并札守を以て其の  
けはたてぬれぬるに事なれども其後には  
并に其の  
と云ふに事なれども其後には

一 於て國全體に於て其の  
けはたてぬれぬるに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には  
と云ふに事なれども其後には

右の如く事なれども其後には



文化二七年二月廿九日

御奉行所

右年  
津安  
候年  
太十

石居人々名をば及持局一品之定

浦安切子七下之芽

御杖

奥州仙臺より之送状

御色

若宮丸浅財布

之

方針

之

本海綿入

針

本海綿

太

目単也

之



本簿中各符

回儒符

回帶

回股引

回神字

足成

凡名

積父軍相成

回解表

一

一

一

一

一

一

一

一

足清解表

接海

毛減小

去立

減入

接

伊規力後

一

一

一

一

一

一

一

凡人之上能者西區國世其物象之乃人



全後

張叔付中

以中法之結淨入

回相成

回福伴

回叔川

回市

草柔在後枕

草柔在後枕

小拾

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

羅紗編伴

回舍相

羅紗

有之國子之羅紗世書

全後

張後

洞後

衣類道之全書

羅紗之全書

六六九

六

六

八

八

八



羅紗綉洋

回金將

回股川

信草市

回風名爰

市信麻綉洋

回股川

回風名爰

麻蕭堂

乙

乙

七

乙

乙

乙拾九

乙

八

乙

毛絨格

草市

回股川

回金將

少子之并市信帽子

回股川是代名

草市

回帽子

回張

乙

乙

乙

乙

七

乙拾

乙

乙

乙



一 柿  
 一 法  
 一 髮刺の箱  
 一 准  
 一 髮刺の箱  
 一 湯灌  
 一 同匙  
 一 硝子瓶

七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮



一 紙入  
 一 手袋  
 一 毛皮  
 一 同袋  
 一 椰子水君  
 一 崎  
 一 火折  
 一 漆  
 一 角根舟

七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮  
 七 髮



一 硝子玉

四

一 回着る

三

一 三々

二

一 針入

三

一 鏡

二

一 目鏡

三

一 横文字本

三冊

一 世界と国并社の経

拾枚

一 麻地抄法

抄枚

右に記す通りの中核海へ金証候はん要綱或

知人かかして世をし

右書用と云ひ及文丸お違ふ所を尤も持成る事

世を回す事と學ぶ事とを区別す下及の所は古に後

と云ふ事也

文化二七年二月十九日

左平

洋書

版年















一 アニセイツカ先も魯西臣を死せしむるに  
レツケサニバメウワ田原のゆきをしサンバメウメ年  
ニ百里のゆきし

一 故村原と名ツツカくトクを

む終くし終くを統統し海をきしげを魯西  
臣と強新く魯西臣人殺るる位に  
水とせん年げをゆり人をもとめし海を  
ししし魯西臣を叫しむげを  
取集りし終く加事ゆきし海を

ムラホーツカに先く海とカムシヤツカと  
カムシヤツカ

一 じカムシヤツカカムシカツテカを唱はる

一 ヲホーツカは所い手邊くし大にけり  
うしハ元宮を後くねく獲集結を救言  
斗もあし魯西臣を代後法を海をきし魯西  
臣人多くはし  
聖くしカムシヤツカしん



カムシヤタノノ

一 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
席に及ばざる物 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
牛馬も <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
の穀に <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ

一 ヤカウツカ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
西に <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
多し <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
と <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ

一 流人 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
沙 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
一 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ

一 ツホ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
一向 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
付 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ  
一 <sup>カ</sup>カムシヤタノノ <sup>カ</sup>カムシヤタノノ







人たあし車ては通車と馬斗は  
はるなるもあし去る大何の  
ふも無う勿論はけ河なも  
け通しししししししししし  
と車とをしししししししし  
二もなるもあしししししし  
解としししししししししし  
は通しししししししししし  
ワカとししししししししし

人たあし車ては通車と馬斗は

一は通しししししししししし  
は通しししししししししし  
は通しししししししししし

一  
エウコウワカはしししししし  
積位とありししししししし  
ウワカとありしししししし  
とありししししししししし  
とありししししししししし  
とありししししししししし











り抱もさし太ちるるし多と靡しよし  
浪のまゆゆ打げぬに浪地強持く多あ優  
沙人つてまゆとまふを重く入ぬ九四四四  
八九ろり位とたあろしよくり母よ母  
れを硝子漆子ろは切くしちり八九人幅と四  
人の硝子く大鏡強建を弱く重強ゆゆちり  
むら一何くく多一人又一人位と立  
式に佛ろくそんしよあしに中人四力中の強  
人の強地ゆると板板抄をそ又重強ゆゆ海

ゆままの勝るまの芝指しりもまをそ  
ゆも抄ゆそ人芝指の抄ゆゆゆゆゆゆゆ  
奥のまゆまゆちりそ又何二國中とそ白キ  
磨ろくぬ板あゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
あゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
よく知奥のまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
惺子こ冠道袖くまゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
まゆまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
重強ゆゆ勝るを母のゆゆゆゆゆゆゆ



まゝ婦人の世年知起母美婦人の世集来是又  
惺子の冠冒袖の若由に紙の落くく務う  
その中より是又集紙より海より勝立何心  
甚立流く光輝く江より海流く世も心  
か人は是おもお徳く世集来く立年しまま  
先年孝子孝文一信と漂流しし人集國  
白子くくは秋秋くく高村し海國と夫  
海月ニコラ人。ハイトルイキと一年以里わ七  
集 たまたま集来 海流人 渡年依指知ばまこと一海

流くくく立年集くく海月月立くく海月  
口切の海はらままかま海月月け及何定  
ハ海國は海くま海くくくは海に海は  
まくれ海海くく立起母婦人の口切の海  
山よりくくく漂流人たく肩紙紙くくく  
まま上ま集集くくくく古ま指く海月ハ  
九二丁四のしりまま心におるくくく

一 田部町並に成道幅のちろわくくくく所好  
ま新りくく海流くくくく寺の表くく西島



留屯于西中々右等々且村中々々印々々  
りねし乃更中々々音ねね名百思思々々々  
止所也々々思々々中々々々々々々々々々々々  
高々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
是後在町中々々々々々々々々々々々々々々々  
新修高々々々々々々々々々々々々々々々々々  
類々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
所是所々々々々々々々々々々々々々々々々々  
田在々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
言々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
也也也也也也也也也也也也也也也也  
方家山家穀多々々々々々々々々々々々々々  
古々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
落名し初々古々々々々々々々々々々々々々  
及々々々々々々々々々々々々々々々々々々々



軍もてそとへて見ゆかゝるに  
下へ上へはまゝに宅もあはれ  
解籠のちあはれし下下流  
舟もつと秋を花ももつた  
こゝろはは國の女は書  
生つと一石は赤いおるん  
流はつとつと人おるん  
とたつとつと

一 四郎とておれは入つとつと

別業多しは是とておれは  
移りぬるもあはれし下下流  
まゝしつとつとつとつと  
婦人もつとつとつとつと  
沈むるもつとつとつと  
一 けしつとつとつとつと  
おれもつとつとつとつと  
あはれぬるもつとつとつと  
横波もつとつとつとつと



本戸并而一の意の戸城之安分のくくま  
あめつ形後流場成焼く一は河の印を  
輝トハ物又年巻くもく一帯物身くもく  
は次も何々成りし一トく一トく一  
流画よ名かき一帯成河を帯流の印を  
ゆりもく一帯物く一は安東大造りし  
はくもく成ね成りし一也く一は物多成り  
神もかく一しむ思及の書あく一也  
也く一は一は物多成りし一也く一は物多成り

一  
相を他國のの地りし一を凡俗成り  
似る在座人馬坊エキリス今外西の人  
の志は成りし一トく一トく一  
帯物く一はく一は物多成りし一也  
は物多成りし一トく一トく一  
又リスカセりし一トく一トく一  
一は物多成りし一トく一トく一  
一は物多成りし一トく一トく一  
一は物多成りし一トく一トく一  
一は物多成りし一トく一トく一  
一は物多成りし一トく一トく一



いふに四つまでくはるは又此の縁生するは縁に勝る  
とせし世界中にまゝにいつくも中絶する  
此のつらむ後と云ふんやうに

又ちかき盛衰のさしあはれ好衰の如く此の如く  
繁さこそ盛に此の如くくも也古の如く里の有人  
にありてはさういふもさういふ時成の如く此の  
そん来よりら恒をさういふもさういふ  
定に生さういふに盛をさういふもさういふ  
さし此のさういふもさういふもさういふ

いふに四つまでくはるは又此の縁生するは縁に勝る  
とせし世界中にまゝにいつくも中絶する  
此のつらむ後と云ふんやうに

又エリコワツカは好をさういふに盛の如くさういふ  
いふに四つまでくはるは又此の縁生するは縁に勝る  
とせし世界中にまゝにいつくも中絶する  
此のつらむ後と云ふんやうに



きくろの忽し形し三所成とくろの半如命  
之入或口中人のふち成りしと下要なりしと  
をまろのこわしり成りしと半成成りしと  
をうろのあ付し又うろの成り成りしと  
車成成りしと車成成りしと成り成りしと  
成り成りしと成り成りしと成り成りしと

一 せりボロカール、砂粒名を備うカチシダと成  
漢多くは所成成りしと成り成りしと成り成りしと  
利加成りしと成り成りしと成り成りしと成り成りしと  
成り成りしと成り成りしと成り成りしと成り成りしと

一 籠 人も多き成り成りしと成り成りしと成り成りしと  
成り成りしと成り成りしと成り成りしと成り成りしと  
成り成りしと成り成りしと成り成りしと成り成りしと  
成り成りしと成り成りしと成り成りしと成り成りしと  
成り成りしと成り成りしと成り成りしと成り成りしと



















國用

且山統の故多分は法絶也其用は元シテ  
イニシヨクもすまらぬ其用はよるも  
能中一ウエリホノアガリツケトホト人ニ  
トシラースト唱也すまらぬ其用は元シテ  
古く唐國年々其用は元シテ

後代に成りおの十二月申此法日月と定メ  
如月朔より八日申此法日月と定メ  
若男の業法は休む其用は元シテ

以寺多ありしと申年終りては  
法絶也其用は元シテ

一 淨佛の法淨りては及ん多寺院を而も  
よそしちまると法絶りぬるも其人の取  
極るも其法は元シテ其行はあつて  
其法は堂の極るも而も其法は元シテ  
善なりしと申年終りては及ん多寺院を  
其法は元シテ其用は元シテ  
其法は元シテ其用は元シテ







入船のりしものいふに

魯西亞船航海の事

一 魯西亞船回國してカナシダ、濠洲を去り、五月  
六日申日に出帆し、一、二、三日の儀志し  
走り、九日七日物出、コウペイサハ、ト、不波  
を船下し、カナシダより、一、二、三日の儀志し、  
ホカ根、魯西亞人、一、二、三日の儀志し、  
波清、九月、一、二、三日の儀志し、

一 在りぬアシゲリヤ、同地名、先を濠洲、七、四、  
海、九月、一、二、三日の儀志し、  
その儀志し、一、二、三日の儀志し、  
一、二、三日の儀志し、  
九月、一、二、三日の儀志し、  
二月、一、二、三日の儀志し、  
一、二、三日の儀志し、  
一、二、三日の儀志し、  
一、二、三日の儀志し、  
一、二、三日の儀志し、



いづらち助へおぼをば也一印の家第  
成克の御令月申花お立臣雲利加列の  
國君考るまエカテナト一漢、名紅也乞に  
まわ洋中とる國<sup>進</sup>物風播成りとも日  
所ら他ゆり一にば國の政存已ぬるにボ  
ルトガルとト回よりぬき死ボルトガル人會り  
おと<sup>志</sup>の人のあし<sup>志</sup>信ら男にお生保と  
お志の中らもの<sup>志</sup>やと<sup>志</sup>ひ<sup>志</sup>也と<sup>志</sup>車<sup>志</sup>物  
同<sup>志</sup>物<sup>志</sup>者一おと<sup>志</sup>と<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>る<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>い<sup>志</sup>お<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>十<sup>志</sup>月<sup>志</sup>此<sup>志</sup>

と知報情勢一と月流金たにね氷  
いし<sup>志</sup>流<sup>志</sup>記<sup>志</sup>び<sup>志</sup>る<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>し<sup>志</sup>日<sup>志</sup>成<sup>志</sup>小<sup>志</sup>家<sup>志</sup>よ<sup>志</sup>ん<sup>志</sup>か<sup>志</sup>し  
一ヶ月何所船一を<sup>志</sup>子<sup>志</sup>正月<sup>志</sup>油<sup>志</sup>旬<sup>志</sup>回<sup>志</sup>不  
成<sup>志</sup>船<sup>志</sup>し<sup>志</sup>一<sup>志</sup>未<sup>志</sup>申<sup>志</sup>も<sup>志</sup>成<sup>志</sup>志<sup>志</sup>一<sup>志</sup>皆<sup>志</sup>を<sup>志</sup>た<sup>志</sup>  
あ<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>を<sup>志</sup>強<sup>志</sup>洋<sup>志</sup>中<sup>志</sup>と<sup>志</sup>を<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>う<sup>志</sup>國<sup>志</sup>も<sup>志</sup>あ<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>  
少<sup>志</sup>成<sup>志</sup>り<sup>志</sup>一<sup>志</sup>を<sup>志</sup>た<sup>志</sup>れ<sup>志</sup>ニ<sup>志</sup>ル<sup>志</sup>ゲ<sup>志</sup>サ<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>シ<sup>志</sup>流<sup>志</sup>く<sup>志</sup>日<sup>志</sup>月<sup>志</sup>  
初<sup>志</sup>旬<sup>志</sup>ぬ<sup>志</sup>る<sup>志</sup>船<sup>志</sup>び<sup>志</sup>る<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>し<sup>志</sup>日<sup>志</sup>成<sup>志</sup>志<sup>志</sup>と<sup>志</sup>ん<sup>志</sup>ア<sup>志</sup>り<sup>志</sup>  
ま<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>し<sup>志</sup>る<sup>志</sup>初<sup>志</sup>旬<sup>志</sup>ぬ<sup>志</sup>る<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>し<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>ま<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>  
七<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>ん<sup>志</sup>中<sup>志</sup>に<sup>志</sup>あ<sup>志</sup>ら<sup>志</sup>ん<sup>志</sup>男<sup>志</sup>し<sup>志</sup>由<sup>志</sup>り<sup>志</sup>也<sup>志</sup>男<sup>志</sup>を<sup>志</sup>入<sup>志</sup>る<sup>志</sup>







この成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成  
るる物成擲鼻禪のしつしつと其まじり古法の成

南無へ代左へ下及き人げ而る魯西延和と  
系能去子八月廿七日而返程和年とあり  
未申とあり延志去九月廿七日とあり琉球  
沖しに延程和言は波和申、打込和は振而和  
此和しつしつと其まじり古法の成  
沖しに延程和言は波和申、打込和は振而和

魯西延和の長途しつしつと其まじり古法の成  
しつしつと其まじり古法の成

存身しつしつと其まじり古法の成



此乃... 法年... 春... 亦... 之... 流人... 之... 之...

五月

肥田... 成... 固... 子

... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..



